

「学部長が嫌がらせ」

茨城大教授 賠償提訴

茨城大学文学部の教授「知子60、館山豊60の両2人が学内での権威を利用した嫌がらせ「アカデミック・ハラメント」を受け、田中重博・人文学部長(61)に計880万円の損害賠償を求める訴訟を28日、水戸地裁に起した。訴えを起したのは村中

05年7月、学内の留學生センターのセンター長人事を巡り、選任方法を定める会議を開いたところ、田中重博学部長から「文学部の人事情を考慮した」として謝罪を要求された。06年7月には、自分が出ていない学内の会議で、田中学部長から中傷されたとして、村中教授が発言内容の開示を求めると言論の自由を侵害した」と発言したと言った。その後も半年にわたり、村中教授の副学部長辞任と謝罪を要求。村中教授は昨年3月、任期を前に副学部長職を辞任。前後約3か月間、心療内科に通ったこと病氣療養した。ハラメントは計14項目に上る。

館山教授は学内の評議員だった05年7月に学内の事件への対応を巡り、田中学

部長に進言すると「ふざけたことを言うな。学部長を支える気がないなら辞めろ」など2年半にわたり中傷を受けたという。その他11項目にわたってハラメントを受けたという。これに対して田中学部長は「訴状が届いていないので確かかなことは言えないが、事実を歪曲し、ねつ造している。全く身に覚えがなく、裁判で明らかにしたい。両教授の訴えは常軌を逸している」としている。

茨城大2教授が人文学部長提訴

「嫌がらせを受けた」

茨城大学の村中知子教授(60)、館山豊教授(60)が二十八日記者会見し、学内で田中重博学部長から嫌がらせを受けたとして同学部長に慰謝料計八百八十万円の支払いを求め、学部の会場で田中重博学部長の方針に異論

を唱えたところ、田中た、と主張している。学部長から「それでも田中学部長は「訴状が身に着かない」との研究者か」と威圧され、肩に負けないで確かなコメントを発表した。

損賠求め学部長訴える

茨城大の「精神的苦痛を受けた」2教授

茨城大学内で「アカデミック・ハラメント」の被害に遭い精神的苦痛を受けたとして、同大の留學生センターに知子教授(60)と館山学部長が介入して審議を求め、同大文学部の村中重博学部長(61)に計八百八十万円の損害賠償を求める訴訟を二十八日、水戸地裁に起した。張。館山教授は同年七月の文学部内の会議トを出した。

茨大で「アカハラ」

2教授、学部長を提訴

役職辞任を強引に求めらるなどの「アカデミック・ハラメント」を受けたとして、茨城大学の文学部の教授2人が28日、同学部の田中重博学部長を相手取り、計880万円の損害賠償を求める訴訟を水戸地裁に起した。館山教授も学部内の問題を口実に、2年以上にわたり「自覚がないのならやめろ」などと、威圧を受ける

などした。村中教授は「大学はハラメントが起しやすい環境。ハラメント防止救済機能を果たす制度を確立してほしい」と話した。一方、田中学部長は「まだ訴状が届いておらず、確かかなことはいえないが、両教授の訴えは捏造で根拠のないもの。極めて遺憾」とコメントした。

29(火) 東本

「学部長がパワハラ」

茨城大 文学部2教授、地裁に提訴

暴言などの「パワーハラスメント」で名誉を傷つけられ、精神的苦痛を受けたとして、茨城大（水戸市文京）人文学部の村中知子教授（60）と館山豊教授（60）が28日、田中重博学部長（61）を相手取り慰謝料など計800万円の損害賠償を求めて水戸地裁に提訴した。

【清野崇宏】

学部長は04年7月ごろから、学内の人事を決める委員会や学部の三役会議などで、教授の意見に対し「生意気なことを言うな」などと威圧する発言をしたり、謝罪や辞任を繰り返して要求したりしたという。提訴の対象は04年7月～07年3月の田中学部長の行為で、2人で計26項目に上る。2人は「大学に繰り返し申し立てたが適切な

「ハラスメントを受けた」

茨大の教授2人 学部長に損害請求

茨城大学文学部の教授2人が28日、アカデミック・ハラスメントを受け名誉毀損や精神的苦痛があったとして、学部長を相手取り、慰謝料など総額880万円の損害賠償を求める訴訟を水戸地裁に起こした。学部長は「何ら根拠がないもの」とコメントしている。

提訴したのは、村中知子教授（60）と館山豊教授（60）。2人と代理人の意見によると、村中教授は2004年7月～昨年1月に14項目、館山教授は04年9月～昨年3月に12項目のハラスメントを学部長から受けたと主張している。

は教育担当副学長だった05年2月、留學生センターの人事をめぐり、「人文学部の人事のか」などと威圧や侮辱を求められたなどし、2人は昨年2月と7月、学内のハラスメント対策委員会に苦情申

し立てをしたが結論が出ず「学内での自浄作用には期待しがたい」と提訴に踏み切った。村中教授は「提訴を契機に大学が自浄能力を持つことを願う。大学の中で問題が解決できなかったことを残念に思」と話した。人文学部長は「訴状が届いていないので確かなことはいえない。

このうち、村中教授